

高松・まちづくりふれあいトーク～市民と市長の対話集会～ **第1回会議録**

日 時	平成19年7月15日(日) 午後2時00分～3時35分			
場 所	木太コミュニティセンター			
出席者 (市)	市長	総務部長	企画財政部長	市民部長
	健康福祉部次長	病院部長	環境部長	産業部長
	都市整備部参事	消防局長	水道局次長	教育部長
	文化部長			
	事務局 7名			
市 民	70名			
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 資料等説明 4 意見交換 			
意見交換				
市民	コミュニティ協議会として動き出したが、自治会は今後どうなるのか～どこに軸足を移していくのか～ネットワークの軸は自治会と思うが如何か。			
市長	コミュニティ協議会と団体との関係をどうしていくのかについては、地区の温度差もあって、短期的に対処するのではなく、大まかな方向としては、地域の特性を活かしながら全体を強化していく中で、協働の組織として、将来的にコミュニティ協議会を中心にして特色を出していけば良い。			
市民	宝くじからの補助金があると聞いたが、中身が知りたい。			
関係部長	一般コミュニティ補助金で、コミュニティのための備品や設備資金に充当するもので、上限250万円を支援している事業の原資が宝くじである。 木太地区では、昨年度に同事業として支援している。			
市民	職員の配置は、適材適所なのか。 河川敷のごみ収集について、県と市がなすくりあいせず、速やかな対処を。 自治会加入率の向上について、未加入職員の意識の高揚を図るべきでは。			
市長	職員の意識の問題であり、今後、自己研鑽を徹底させていきたい。地域のことは、市が第一義で対処していくこととし、県との仲介に当たるものとしている。 また、自治会への加入は、職員が率先して対応すべきものである。			
関係部長	年間400件を超える市長への提言が寄せられており、どしどし意見を賜りたい。			
関係部長	私有地のケースもあり、管理責任の所在を明らかにしながら、クリーン作戦を展			

	<p>開していきたい。</p>
市民	<p>地域別まちづくりの重なり合っている部分は、どう取扱うのか～木太地区は、真ん中で切れたようになっている。</p>
関係部長	<p>各地区が大きく重なり合うことで、本市全体のまちづくりを考えていきたいとしたものであり、地区を分けようとするものではない。</p>
市民	<p>当地区のコミュニティ協議会事務局の気配りに感謝している。他地区のモデル事例として波及させていっていただきたい～報告としたい～。</p>
市民	<p>保育所・幼稚園の園児数が知りたい～少子化対策として若い世代を増やすべし。</p>
市長	<p>少子化を止めるのは難しいが、安心して子育てができる環境は創るべきで、よりニーズのあった保育（延長保育・預かり保育・地域子育て支援拠点事業）を充実していくことで、子育ての両立が図れる地域社会づくりをめざしていくべきである。</p>
関係部次長	<p>保育所数は、公立44（定員4,410人）・私立30（定員3,604人）の74箇所（定員10,580人）で、待機児童の解消を図るとともに、子育て支援事業を地域における中核として位置づけて取り組んでいる。</p>
関係部長	<p>幼稚園数（平成18年度）は、公立29（定員4,570人）・私立26（定員5,940人）の55箇所（定員10,510人）で、入園率がそれぞれ65.6%、75.0%、71.1%となっている。</p>
市民	<p>入所希望に対する余力が十分あるということと解する。</p>
市民	<p>木太には若年層が多いが、子どもの遊び場が少ないので、整備してほしい。</p>
市長	<p>都市計画マスタープランの見直しの中で検討していく。</p>
市民	<p>公園愛護会で活動しているが、北部にも南部にも公園はなく、一校区一公園整備という計画を実現してほしい。公園は街の顔であり、地元管理にも寄与したい。</p>
関係部参事	<p>緑の基本計画で位置づけており、今後、都市計画マスタープラン見直しなどの中で調整していきたい。太田第2は、事業面積の3%を確保（近隣公園6・街区公園19）。</p>
市民	<p>市婦連に所属しているが、補助金（年間130万円：41団体）が少なく、持ち出し覚悟でやっているが、一方で一般企業の手伝いをしている団体にあっては、交通費等の支給さえしてもらっているらしいので、何とかならないのかという声もある。一度、考え置きいただきたい。</p>

関係部長	<p>補助金の少なさを、知恵と工夫で運営しているのは承知している。補助金は、トータルとして考えていくことが必要だと思っており、透明性を担保することで相互に融通しあうという工夫も必要でないか。</p>
市民	<p>地域のまちづくりの一環として、子ども達への青色パトカーに助成してほしい。</p>
関係部長	<p>ボランティア活動としての住民パトカーは、安全・安心のまちづくりに効果を発揮しており、青色回転灯による先進事例を調査している段階にある。 基本的には、団体が主体的に犯罪の少ない環境づくりと「面識社会の形成」に取り組んでいく中で青色回転灯のあり方を検討していきたい。</p>
市民	<p>木太地区を高松市の副都心として位置づけるなら、出張所を移転して整備する構想を我々は描いているが如何か。</p>
市長	<p>公共施設のあり方として、既存施設の活用も考えていくべきで、新たなものでなく、今あるものをどう活用していくかが大切である。青色パトカーを例にすれば、行政が乗り出す前に、地元が対応するという姿勢を支援していきたいし、ご近所が協力し合うことで、かなりのものが解決できると思う。 NHKで「ご近所の底力」という番組があるが、こうした事例から学ぶまでもなく、コミュニティが動くことが大切であると思っている。</p>
市民	<p>水不足によって、学校プールが閉鎖されているが、今後、どうなるのか。</p>
関係部長	<p>例年より1ヶ月早い時点での早明浦ダムの二次取水制限の段階で対策本部からの要請により閉鎖したが、教委と校長会との共通認識のもと、水資源や地球環境を学習する中で、水の恩恵をプラス面に捉える方向で取り組んでいる。既に7月10日から再開しているが、今後は、制限解除を受けて、夏休みのプール開放も視野に入れて対応していきたい。</p>
市長	<p>毎年、同じような状況が続いているが、止むを得ない環境に置かれていると認識しており、今は我慢して持ちこたえるしかない。高松の水対策は、抜本的な対策が必要であり、長期・短期を含めて検討していきたいし、せめて、プールだけでも対応できるように考えていきたい。</p>